

アシナガバチの仲間

セグロアシナガバチ

アシナガバチ亜科



大きさ：16～26mm

生息環境：

- ・人家の軒下や木の枝に平たいシャワーヘッド型の巣をつくる
- ・街中で最もよく見られるアシナガバチの仲間

日本では本州より南の暖かい地域に生息していましたが、近年になって北海道でも営巣が確認されました。木材などの貨物と一緒に運ばれたものと推測されています。

キアシナガバチ

アシナガバチ亜科



大きさ：18～24mm

生息環境：

- ・人家の軒下や木の枝に厚みのあるシャワーヘッド型の巣をつくる
- ・セグロアシナガバチよりも自然が多い郊外や山間部に多い

アシナガバチの女王は屋根裏や樹洞などで越冬しますが、キアシナガバチは働きバチも一緒に冬を越すことがあります。春一番に働きバチがいるので、ほかの種よりも早く巣づくりができます。

△ アシナガバチの仲間を観察するときは、巣から1～数 m 離れた場所から静かに観察しましょう。お庭では窓越しに見ることで、互いに安心して観察できます。

コアシナガバチ

アシナガバチ亜科



大きさ：9～11mm

生息環境：

- ・人家の柵や塀、ひさし、石垣などに反り返った舟型の巣をつくる
- ・街中でよく見られるアシナガバチの仲間

体は小さいですが、ほかのアシナガバチと同じように狩りをします。成虫はチョウやガの幼虫を捕まえて、アゴを使って肉団子をつくらせて巣へ運び、幼虫へ与えます。

フタモンアシナガバチ

アシナガバチ亜科



大きさ：14～18mm

生息環境：

- ・木の枝に平たいシャワーヘッド型の巣をつくる
- ・河川敷のような開けた環境を好むが、街中でも見られる

日本固有のアシナガバチで、北海道から沖縄まで広く生息しています。南西諸島（沖縄島、与論島）には基亜種が生息しており、キイロフタモンアシナガバチと呼ばれています。